

SSSV報告

ペンシルベニア大学SSSV報告

歯学科6年 久保田 瑞 穂

私は、今年の2月下旬から2週間、アメリカのペンシルベニア州フィラデルフィアにあるペンシルベニア大学でのSVプログラムに参加させていただきました。

ペン大のプログラムは、臨床実習の見学・アシストがメインで、セミナー聴講をする日もありました。そして、1日の終わりには英語でのエッセイが課されます。質疑応答などをしているとあっという間に時間が経ってしまい、なかなかハードな日々でしたが、それ以上に得た知識や経験は大きなものでした。

私が特に印象に残った点は2つあります。1つ目は、学生の主体性です。現地の学生と最初に会話をしたとき、彼らは皆自信に満ち溢れていて、同年代とはとても思えませんでしたし、口腔外科では、残根や臼歯の難抜歯もほぼ自力で診療を行っていました。マイクロスコープやルーペも当たり前のように使いこなしていたのも衝撃的でした。講義でのディスカッションやプレゼンを見ていると、より良い診療を行うために、妥協を許さない姿勢で学んでいることがよく分かり、強い刺激となりました。2つ目は、日本とアメリカの診療内容の違いです。学生の診療を見学した際、60代で上下顎FDの患者さんが多いことに驚愕しました。日本との違いを先生に話したところ、保険制度の問題もあるが、教育格差による問題も大きいとのことでした。背景に、環境、経済、民族など多様な問題が複雑に絡み合っていることを痛感

させられた瞬間でした。

また、ペン大で研究をされている高度口腔機能教育研究センターの前川知樹先生にもお会いすることができました。前川先生は、研究室を案内してくださったり食事に誘ってくださったりして、私たちのことを大変気にかけてくださいました。他にも、エンドの名医と言われているキム先生や、ペン大で指導医をしている日本人の先生ともお話しする機会がありました。

現地の学生は非常に優しく、すぐに打ち解けることができました。診療と平行して治療内容の説明をしてくれたり診療の合間には雑談をしたりし、どの国の学生も勉強に対する悩みや情熱は変わらないことを感じました。



COVID-19が猛威を振るい始めた中でのSV参加となり、ペン大も私たちの帰国直後から休校になるとのことでした。そんな中、無事に全てのプログラムを終えて予定通り帰国できたことは、奇跡に近いと感じています。引率して下さった前田学部長を初めとする、SVに携わって下さった全ての先生方に、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

私がSVに参加するのは、スウェーデンのマルメ大学以来で2回目です。北欧とは全く違う雰囲気や教育スタイルを学び、充実した日々を過ごすことができました。「海外の歯学部」と一括りに言っても、大学によって千差万別です。海外の歯学部の様子を学んで現地学生と交流を図る、そんな経験を学生の期間にできるチャンスは滅多にな

いと思うので、皆さんも是非SVに参加してみませんか。自分の価値観がガラッと変わる一歩になるかもしれません。



2020年SV トロント大学歯学部を訪問して

歯学科5年 五十嵐 理 沙

2020年3月3日～17日の14日間、カナダにあるトロント大学歯学部へ派遣していただきました。トロント大学は今年度初めての派遣先だったことに加え、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、直前まで渡航が危ぶまれ、不安を多々抱えながらの出発となりました。ホテルトラブルにも見舞われ、波乱の幕開けとなりましたが、他国への派遣が次々と中止になった中、無事渡航・帰国でき、その後感染することもなく元気に過ごせたことが今回の何よりのお土産だったと思います。

トロント大学は世界でもトップレベルの大学ですが、歯学部を見ているとそのことを非常に感じました。医学部や歯学部に入るためには、まず四年制大学を優秀な成績で卒業し、入試に合格しなければいけないそうで、世界各国から非常に優秀な学生が集まってきているなと思いました。日本では歯科医師過剰、歯科医師の未来は暗いと言われてしまっているのが現状ですが、カナダではdentistはステータスがが高く、非常にいい職業だそうです。見聞を広げるためには、日本だけに固執せず、世界に目を向けて幅広い視点から物事が考えられることが大切だと感じました。

メンバーが2年生と私ということで、講義と臨床をミックスしたプログラムが多かったのですが、フレキシブルなプログラムでとてもよかったですと思います。

講義では、お菓子を食べたりコーヒーを飲みながらも学生が積極的に授業に参加し、質問していた姿が印象的でした。自分自身がすでに学んだ内容のものも多く、日本の講義との共通点や違いを知る良い機会となりました。先生が患者役、学生が歯科医師役でさまざまなシチュエーションを想定したロールプレイなどを行う授業（PBLのようなもの）も充実しており、大変興味深く拝聴しました。

臨床系の実習は、主にprosthodonticとインレー実習を見学しました。部分床義歯の実習では、いくつかのグループに分かれて症例検討をしていました。模型の欠損部が実際に4年生のときに使用したものと同じだったこともあり、親近感がわきました。

クリニックも間近で見学させていただき、大変貴重な経験となりました。とくに歯周オペとインプラントが印象に残りました。インプラントは日本とは違って、主に歯周病科が一貫として行っているようで、自由診療であるものの比較的メジャーな治療とのことでした。

クリニックでは、歯学生のクリニック（student clinic）と歯科医師のクリニック（Graduate clinic）の両方を見学させていただきました。学生は卒業までに充填（修復）を約100本、抜歯何十本、インプラントも最低一本こなさなければならないということで大変驚いたと同時に、自分ももう患者を診る学年になるということもあり、身の引き締まる思いでした。

最初の週末は、高速バスにてはるばるナイアガラの滝に行きました。世界三大滝の一つというだけあり迫力満点で、夜のライトアップも非常にき



れいでした。2回目の週末はコロナの影響であらゆる観光スポットが閉鎖されてしまったため、散歩やカフェでのんびりしたり買い物したりして過ごしました。

昨年にマルメ大学、今年トロント大学と2年連続でSVプログラムに参加させていただきましたが、特に今回は英語圏の国であったこともあり、自分の思いをうまく英語で伝えられないもどかし

さをひしひしと感じました。日本にいるとなかなか英語に触れる機会がないですが、これからも英語にはしっかりと向き合っていかなければならないと改めて感じました。

このような機会を与えて下さった方々に改めて感謝申し上げます。ぜひ来年度以降もトロント大学歯学部とのSSSVが続くことを願っております。

